

リコウ・バカ  
小嶋祥三

以前、このHPの『ドストエフスキーを読む』で紹介したが、「きみは才能があるのに、非常に多くのことに理解を欠いている、なぜなら、きみが下劣な人間だから」。これは『悪霊』でキリーロフがピョートルに言った言葉である。そして「われわれの身の回りにもこの類の御仁が結構いるのではないだろうか。」と続けた。確かに、この種の人物はゴマンというが、彼らの言動が公になることは多くない。

今回、自民党の衆議院議員・豊田真由子氏の言動にはびっくりした。秘書に向かって発せられた罵声は聞くに堪えない。聞いているコチラが恥ずかしくなってしまう。豊田氏は有名女子高から東大法学部卒業、厚生省に入省、その後衆議院議員に転じたという。つまり、大変なおリコウさんである。おそらく、役人になったとたんに、将来の幹部候補ということで、床の間を背にチャホヤされることもあっただろう。本省の威光を背景に、下の人間を蔑視する傾向が生まれたのかもしれない。なぜ、役人から政治の世界に転じたのかは知らない。万が一事務次官になれたとしても、重要な人事は政治家に握られている。内心馬鹿にしつつも、政治家にはペコペコせざるを得ない役人が嫌になったのだろうか。あるいは、かつての同僚をペコペコさせたかったのだろうか。

衆議院議員となれば一国一城の主である。役所にあった多くの制約はなくなり、まるで神であるかのように、思うが儘にふるまえるようになる。それまで歩いてきたエリートコースや役所で培ったかもしれない、フツウの人への強い蔑視が、何かをきっかけに、ほとぼしり出た感じがある。あのような言動が人間として良いはずがない。そんなことは考えなくても分かることだ。それが分からないからバカなのだ。傲慢さが心の鏡を曇らせたのだろうか。豊田議員にはキリーロフの言葉が当てはまるように思う。「あなたはエリートなのにそんな行動をするのは、あなたが下劣な人間だからだ」。

わたしたちの業界には「ブラック研究室」なるものがあるという。研究室のボスがやりたい放題にやっているのだろう。いわゆるアカ・ハラの問題である。被害者になりやすい学部生、大学院生、若手研究者は身を守るために、今回の秘書氏のように、ポケットにテープレコーダをしのばせておくことだ。